



和水町立病院では、皆さんが診察を受けられた際、確実な診断・治療を行うため、さまざまな検査を行っています。町立病院でどのような検査が受けられるのか紹介します。

近年、医療における画像診断の重要性はますます高まっています。

画像診断を専門とする放射線科医は全国的に不足していて、熊本の医療圏も例外ではありません。そこで、熊本大学医学部放射線医学教室が中心となって、熊本県の医療施設でも大学病院と同等の質の高い医療を提供できるようにすることを目的として、熊本大学放射線医学教室連携画像診断センターが開設されました。

和水町立病院では、この画像診断センターと遠隔画像診断ネットワークを作り、離れていてもネットワーク経由で、CT画像を診断できる仕組みを作っています。

遠隔画像診断の方法は、当院医師が遠隔画像診断の必要な時に、放射線技師に依頼します。放射線技師は依頼されたCT画像と臨床情報などをチェックし、画像診断センターに

送信します。センターでは、1次画像診断医の専門により画像が振り分けられます。そして音声認識ソフトなどを活用して、診断書ができます。その後、2次画像診断医が最終的に内容をチェックし、通常は依頼された次の日に、緊急の場合は1時間以内に町立病院に送信されます。

当院放射線科では、放射線に対する正しい知識を持った診療放射線技師が検査に従事しています。必要最低限の放射線量で質の高い画像を提供していますので、安心して検査を受けることができます。

最後に、誠実な医療を通じて地域の皆さまに愛され親しまれる病院を目指します。



始めてみよう！「お茶の間筋トレ」～vol.20～

ひざの痛みを抱えている人は多いと思います。関節の中で一番負担がかかるのが「ひざ関節」です。ひざを守るために周囲の筋肉を引き締めるゴムバンドを使った体操を紹介します。

- ① 右ひざと足首を自身の可動域に合わせて曲げ、足裏にゴムバンドをかけます。
- ② 脚全体の筋力でひざ裏が気持ちよく伸びるところまで押し出します。



※回数は10回位を目標に左ひざも同様に行います。

神 尾城跡の南東隅にある神尾山墓地は、江戸期に大田黒を知行した吉弘氏が建立しました。

吉弘加左衛門正葉之墓〔左側面解釈文〕
正葉は、祖先は大友氏。能直の九男・田原泰廣の子孫・貞直は、豊後の吉弘郷に住み、吉弘貞直と名乗った。11代の統幸は、1600（慶長5）年9月、豊後・石垣原の役で戦死。次男の正久は、肥後藩で禄を得た。5代の正直は、隠居して青山と号した。長男は正葉。正直は、1797（寛政9）年に死去。正葉は命で関東に赴き、寛政10年に病死。46歳。

（※墓は正葉の子・正雄が建立）

本寛院青山翁之墓〔裏面の解釈文〕
正直は、禄高350石。三村から年貢米を得た。肥後藩から許可を得て、玉名郡大田黒（和水町）・同郡西照寺（玉名市岱明町）・益城郡上郷（上江とも）（宇城市豊野町）に居住。1732（享保17）年に誕生。騎隊となり、隠居して青山と号した。1797（寛政9）年に死去。

吉弘氏にかかる墓碑銘と侍帳からの所見
①加藤家・細川家の侍帳によって、関ヶ原の戦いでは西軍に属し、豊後・石垣原合戦で破れた大友氏の旧臣（大友一族で、同じ紋章を用いています）・吉弘氏の子孫に

は、合戦後、小西領を併せ、肥後の大名加藤家に仕えた吉弘氏と、丹後（京都）から豊前の大名となった細川氏に仕えた吉弘氏がいたことが分かります。

②豊前で細川氏に仕えた吉弘助五郎が、肥後に随従して来た時の知行は150石。それを継承した子孫の名は見出せません。

加藤家に仕えた吉弘加兵衛（正行）は1千石余の知行でしたが、加藤家の改易で浪人となり、代って肥後の大名として入国した細川氏に召し抱えられました。

その子の藤左衛門は侍帳で3百石とありますので、親の加左衛門正行も同じ3百石の知行であったとみられます。

以後、吉弘氏の知行は5百石の時期もありましたが、分家を立てて2百石を譲りましたので、それ以降は、本知（本来の知行）3百石と新知（新知行地）50石の計350石で推移しました。

③この家は、通称を「加（嘉）左衛門」または「藤左衛門」と称し、実名（個人の名前）は「正」を通字として代々名乗っています。鉄砲頭脇役や馬廻衆などの役についていた例が推定されます。

吉弘統幸は、石垣原合戦で主君を諫めるも聞き入れられぬまま、合戦の主力となって討死したことで後世まで評価の高

かった人物です（地元に吉弘神社があります）。加藤家に仕えた吉弘加兵衛（正行）は、実名読みも「マサユキ」と「ムネユキ」と共通しており、統幸と正行は親子の關係にあったとみられます。

④侍帳も墓碑銘も、吉弘氏の知行地は玉名郡では西照寺村・大田黒村と歴代変化が無く、同氏はこの地に格別の愛着を持っていたと思われる、遺言もあつて神尾山に墓碑を建立したのでしょう。多くの場合、熊本在住の藩士は、熊本所在の菩提寺に墓所を定めていますので、異例です。

⑤加左衛門正春は、1723（享保8）年の侍帳の当主ですが、養子でありなが

ら正任と正春は兄弟であると解釈されま
す。正任に後継ぎなく、弟が養子となっ
て次代を継承したとみられます。

左図は、肥後藩における家系を、前半
は『肥陽諸士鑑』^{ひようしうしんかん}、後半は墓碑銘で繋ぎま
した。正春までは明らかですが、墓碑の正
直は不明で「銘から生没年（1732～
1797年）は明らかです」、侍帳では空
白期にあたります。おそらく、1723
（享保8）年の正春より後で、1831
（天保2）年の侍帳の嘉左衛門より前の時
期の当主であると推定されます。そして、
正葉の子・正雄は、その天保の嘉左衛門
と見てもよい思われます。

歴史調査の楽しみ方

神尾城跡

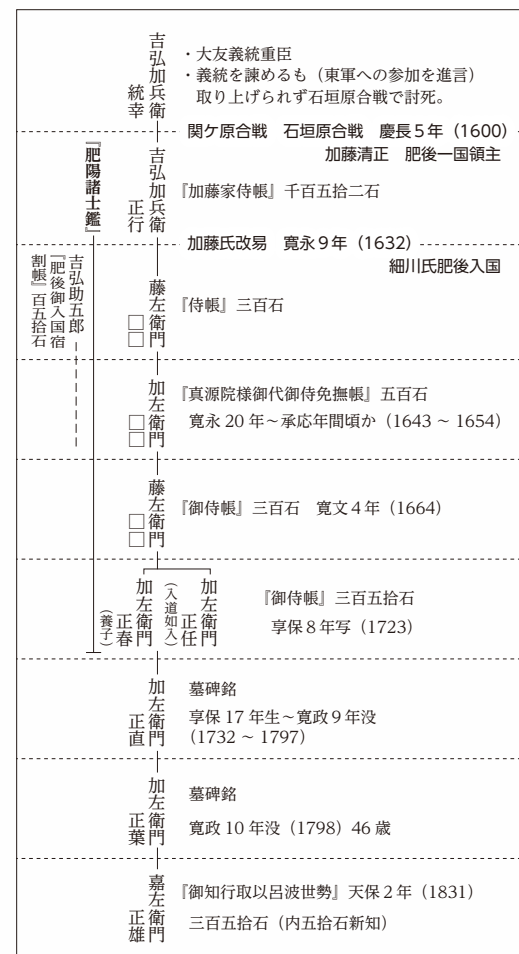
16



大友氏の家紋
「抱き杏葉(ぎょうよう)」
神尾山墓碑 拓本

大田 幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)



吉弘氏推定家系図